

わたしたちの難民問題

2023 vol.24



紛争や迫害を逃れ、家を追われた人が、
世界各地に約1億人いるといわれています。
日本にも様々な国から難民が庇護を求めてきています。
難民の現状を知り、私たちにできることは何か、
一緒に考えてみませんか。

11/22(水) 『トルコのシリア難民は今』

景平 義文さん(難民を助ける会 トルコ事務所)

世界最大の難民受け入れ国トルコで、2012年よりシリア難民支援を行っている難民を助ける会。障がいのある人々や子どもなど支援が届きにくい人たちを支え、難民とトルコ人が協力して課題解決に取り組めるようなコミュニティ作りを支援してきました。コロナ禍や地震など新たな試練の中での難民の現状と支援活動について伺います。

11/29(水) 『ミャンマー難民は今』

ナンマケケカインさん(京都精華大学特任准教授)

軍事クーデターから2年半。日本に暮らすミャンマーの人たちはどうなっているのか。難民認定や緊急避難措置など法的な地位だけでなく、クーデターが日本での日常生活に与えた影響は何か。ミャンマーに戻る事が難しくなる中で、故郷にいる家族や友人とのつながり、また周辺国にいる難民、国内避難民への支援について、ご自身も在日ミャンマー人である研究者より聞きます。

12/6(水) 『ドイツにおける難民の受け入れ』

昔農 英明さん(明治大学文学部准教授)

「難民受け入れ先進国」とされるドイツ。2015年以降急増した難民をどのような認定制度で受け入れているのか、また、難民が新しい生活を始めるために言語教育、就労支援等をいかに行っているのか。その一方で難民・移民に対する排外主義の台頭も軽視できない状況にある。さまざまな課題に直面する中、ドイツ市民はどのように難民と共に暮らしているのかを長年ドイツの難民・移民について研究してきた講師から聞きます。

12/20(水) 『ウクライナの「なぜ」を読み解く:歴史と文化』

ナディヤ ゴラルさん(神戸学院大学経済学部客員教授)

2022年2月24日にウクライナはロシア軍によって攻撃されました。その攻撃は今まで興味を持っていなかった方々にもウクライナに関心を寄せるきっかけとなり、「なぜ」、「どうして」という問いが増えてきています。その問いに答えるのにウクライナの「今」、ウクライナ人の「性格」を作った歴史と文化を読み解く必要があります。

時間: 19:00~20:30

定員: 40名(要事前申込:各回の前日17時にメ切)

参加費: 無料

会場: ZOOMを利用したオンライン講演会(申込者には当日の<招待URL>をお送りします。)

申込方法: 右記の2次元コードを読み取り、申し込みフォームよりお申込みください

問合せ先: 難民事業本部関西支部

078-361-1700 / kansai@rhq.gr.jp

神戸YMCA国際奉仕センター

078-241-7204 / houshi@kobeymca.org

兵庫県国際交流協会

078-230-3090 / hia-ex-co@net.hyogo-ip.or.jp



<https://x.gd/joqrh>